特 集

第 26 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム

「第 26 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム」特集号によせて

Introduction to the Special Issue on the 26th Symposium on Electromagnetics and Dynamics鎌田 康寛^{*1} (正員)

Yasuhiro KAMADA (Mem.)

本特集号は、平成 26 年 5 月 21 日から 23 日の 3 日間、岩手県盛岡市にある「いわて県民情報交流センター（通称：アイーナ）」で開催された第 26 回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム（SEAD26）で講演された論文の中から、日本 AEM 学会への学術論文および技術論文として投稿された原著論文を、特集号としてまとめたものです。

「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウムは、「電磁力」と「ダイナミクス」に関連する異分野、異業種の研究者が一堂に会して情報交換と討論を行うことにより、この分野の研究を総合的に発展させる場を作ることとを目的として開催されてきているものです。今回で 26 回目となるシンポジウムは、平成元年に第 1 回が福島で開催され、日本機械学会と電気学会が交互に主催してきました。第 11 回からは日本 AEM 学会も加わり、輪番による主催で開催され、平成 26 年度は日本 AEM 学会の主催となりました。

SEAD26 では、特別講演および基調講演と、132 件の一般講演（Table 1 に分野別の講演数をまとめました）がすべてオーラルセッションで行われました。シンポジウムへの参加登録者数は、一般 96 名、学生 78 名の計 174 名で、多くのご参加をいただき、本シンポジウムを成功裏に終了することができました。ご参加、ご協力をいただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

1 日目の特別講演では、岩手大学の岩渕明教授に「震災からの復興に向けた岩手大学の取り組み」と題して、東日本大震災からの復興に向けた工学の果たす役割についてお話をいただきました。2 日目の基調講演では、東京大学の樋口俊郎教授に「電磁力と生産技術」と題して、生産分野での電磁力の幅広い応用と可能性につ

いてお話をいただきました。

今回は多数の方に論文を投稿していただきました。厳正な査読を行い、計 33 編の論文を掲載することになりました。本特集号の発行にあたり、投稿論文の審査を行っていただきました、査読者の皆様方に感謝申し上げます。

次回の SEAD27 は電気学会の主催で、平成 27 年 5 月 14 日（木）～15 日（金）に長崎県佐世保市のハウステンボスで長崎大学の樋口剛教授を実行委員長として開催されます。多数の方々のご参加をお願い申し上げます。

Table 1 SEAD26 の分野別の講演数

分野	講演数
機能性材料・電磁材料	5
磁性流体、液晶・電気粘性流体	8
電磁アクチュエータ	4
圧電・静電アクチュエータ	7
超磁歪アクチュエータ	9
マイクロ・ナノメカニズム	5
多自由度モータ・新アクチュエータ	4
磁気浮上技術	3
リニアドライブ技術	3
磁気軸受とその関連技術	10
回転機技術	8
バイオメカニクス	6
静電力・プラズマ応用	1
超電導とその応用	7
電磁誘導技術とその応用	6
振動と制御	3
材料の電磁特性と応用	2
電磁非破壊評価	18
センサ・計測技術	5
電磁界解析、シミュレーション技術	7
ロボット・医療福祉応用	10
合計	132

連絡先：鎌田 康寛，〒020-8551 岩手県盛岡市上田 4-3-5，
岩手大学工学部マテリアル工学科，
e-mail: kamada@iwate-u.ac.jp

^{*1} 岩手大学